

専門学校武蔵野ファッションカレッジ

【学校目標（スローガン）】

企業と連携し職業教育のレベルアップを目指す。

【優先課題】

最優先課題は学生確保である。職業実践専門課程の教育の質保証のある学科として、業界と連携した職業教育の発展させることで本学の特徴を作り、入学対象者から選ばれる学校として成り立つ土台づくりに取り組む。入学する学生達は過去に比べ、自分を優先して欲しい個人主義の気質が強くなっており、授業や就職指導においても大変労力のかかる状況である。より一層丁寧な学生対応をしていかねばならない。

【全体総括】

コロナ禍の影響を受け多方面にわたり学校運営は大変難しい状況となった。特に最優先課題であった学生確保は計画通りの運営が出来ず大変厳しい状況となった。企業との連携発展においては感染予防の観点から計画の変更、実施時期のずれ込みなどが出てしまったが、内容的には従来より発展的な取り組みに至ること出来た。企業側の意欲的な声もあり今後繋がる結果となっている。

【各戦略領域における活動概略】

※ 達成度は ◎ ○ △ × の4段階

戦略領域	概 略	定 性 的 目 標 定 量 的 目 標	定 量 的 目 標 の 結 果	経 緯 と 結 果	達 成 度 ※	成 果 向 上 方 策	問 題 点 改 善 方 策
(1) 教育の充実	企業との連携授業を発展させ、職業教育充実の充実をはかり本学の特徴作りに取り組む。社会人基礎力育成のシステムは今の学生に合わせる形で再設計していく。	企業との連携授業の実現 ショップの運営再設計	企業との連携授業実施	連携授業においては従来より発展した実施を実現。期間限定ショップにおいてはコロナ禍での店舗運営をテーマにして実施。	○	企業側の社会貢献事業として今後の協力継続の意向	企業側の協力のしやすい運営、協力方法の検討
(2) 学生募集	「職業実践専門課程」認定学科の強みを生かす募集活動の実現。学生満足度の広報的利用。	入学者90名、高等学校での模擬授業実施、在校生からの学校情報発信	出願53名	体験入学への参加者の減少により本校の魅力を伝えるまで至らない状況となった。	×	模擬授業では本校に依頼をしてくれる高校も出てきている	情報発信の見直し、相手に伝わる方法、内容の検討が必要
(3) 学生支援	担任による面談にて問題の早期発見、解決、情報共有の仕組み構築。授業料無償化制度の利用指導。奨学金利用者への管理指導。	全教員共通認識での教育相談運営 退学率4%以内	退学率14%	教育相談として継続的運営はできなかったが問題を抱えた学生に対し全教員の共通認識を持つ為に、適時状況報告を実施。	×	共通認識を持つ為に、適時状況報告を実施	教育相談の定期的運営が必要
(4) 就職支援	1学年からの就職指導を強化し、学生それぞれの長所、短所に合わせた就職支援により一層充実をはかる。	就職希望者の就職率100%	就職率85.4%	コロナ禍において求人数減少により数値的には厳しい状況となった。1年生への就職指導はオンライン面接の指導を導入した。	△	面談は学生達を動かす効果をあげている	求人数減少により厳しい就職活動である
(5) 社会貢献・外部連携	SDGsへの取り組みが求められる社会において、社会貢献意識は職業教育の要素である。本学の教育システムに組み込むための土台づくりをする。	企業による社会貢献活動の事例を伝える特別講義を実施。	特別講義内で紹介	SDGsは媒体でも頻繁に企業の取り組みが紹介され、学生達の目に触れる環境となっている。	○	社会貢献は媒体でも取り上げられ学生の理解も浸透してきている	一過性としなない継続した問題意識を持たせる必要がある
(6) 組織・運営体制	業務運営の効率化・優先課題への取り組み体制を整備。	ワーキンググループの導入 全教員共通認識での業務運営	ワーキンググループの導入構築中	育児休暇取得、急な退職者が出るなど組織体制のバランスを崩した為、全員で取り掛かる状況となりワーキンググループの導入には至らなかった。	△	適時ミーティングを実施し共通認識での業務運営	ワーキンググループの導入を
(7) 施設設備	安心・安全な環境整備としての校舎整備。既存の機器の最新化、設備の改修。	立体裁断ボディ購入 CADバージョンアップ プロジェクター設置	立体裁断ボディ購入 CADバージョンアップ実施	立体裁断ボディ購入、CADバージョンアップ実施を計画通り行った。プロジェクター設置の設置は次年度設置に延期することとした。	○	問題箇所は適宜修繕を実施	校舎の老朽化により照明設備が頻繁に故障
(8) 財務戦略	原資である入学者確保への業務強化。学費滞納、未納の防止対策制度の整備。	滞納・未納の防止対策制度の運用	滞納・未納の防止対策制度は整備中	学内の滞納・未納の防止対策制度を構築するまでには至らなかったが、奨学金新制度の利用もあり例年よりは問題となるケースは減少した。	△	継続した課題として次年度に取り組む	問題となるケースが様々であり、制度化には難しい面もある

(2) 学生募集

※ 達成度・評価は ◎ ○ △ × の4段階

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
10	模擬授業実施	教務課	高等学校側から進学先として安心して生徒に勧められる信頼関係を構築をしていく。	従来より模擬授業実施依頼のある高等学校に継続して実施。高等学校との連携を深め信頼関係の構築に努める。	2校以上の模擬実施		最低ラインである2校の実施は実現。高等学校との信頼関係構築には根気を持って続けていく必要がある。		○	近年は本校に直接に依頼をしてくれる高校も出てきている	高校側への協力だけで終わるケースもある。こちらが望む結果が難しい場合は検討が必要	コロナ禍の影響も多々あり進展は困難であった。今後も継続し重要施策としていきたい。	○
11	模擬授業メニュー開発	教務課	模擬授業提案の為に新たなメニューの開発が必要である。	高等学校側のニーズや実施環境、実施時期などの条件を考慮した実習メニューの開発。	実習メニュー2つ以上の案作り		退職者、育児休暇者が重ねて出たことで組織体制のバランスを崩し、新メニュー案づくりまでには至らなかった。		△	令和3年度には新規担当教員を用意でき、挽回できる見込みである		次年度もコロナ禍の影響もあり対面での模擬授業も困難が予想される。こちら側の体制は人員、内容の準備は整えていきたい。	△
12	担当者育成	教務課	開発した実習メニューを実施する教員の育成も必要である。	準備から実施、高等学校側から与えられた環境で実施できる担当教員を育成する。	新規担当教員1名準備。		退職者、育児休暇者が重ねて出たことで組織体制のバランスを崩し、担当教員を用意するまでには至らなかった。		△	令和3年度には新規担当教員を用意でき挽回できる見込みである		次年度もコロナ禍の影響もあり対面での模擬授業も困難が予想される。こちら側の体制は人員、内容の準備は整えていきたい。	△
14	在校生からの情報発信方法検討	教務部	在校生からの学校の評価は出願対象者にとって有意義な情報となっている。本校の魅力を伝える手段として在校生の声を活用を検討していく。	SNSを利用した在校生からの情報発信の企画立案。実施に関しては問題点が多く出ることも予想出来る。その対応策も検討していく。	在校生からの情報発信企画立案。問題点の提示。状況により実施は再検討。		コロナ禍での募集活動では在校生を絡めることが難しくなってしまった。		×		在校生が取り組みやすい仕組みづくりと運営する教員が必要である。	出願対象者にはSNSでの情報発信が益々重要だと考えるが、組織的に取り組む事が必要である。学生の協力の前に、まずは教務部内での方針、運営方法について共通認識を作るべきと考える。	×
17	体験入学での起用	(広報部連携)	在校生からの学校の評価は出願対象者にとって有意義な情報となっている。本校の魅力を伝える手段として在校生の声を活用を検討していく。	体験入学での在校生の起用方法を再考し、従来の方法より効果的なやり方を検討しレベルアップを目指す。	体験入学での在校生の新たな起用方法実践。		感染予防の観点から在校生を絡めることが難しくなってしまった。		×		令和3年度も感染予防最優先の運営が必要であるが在校生の新たな起用方法の検討が必要	在校生が起用できないことは痛手であったと捉えている。この環境下で成果を上げられる方法を考えることが必要である。	×
19	留学生獲得	(広報部連携)	留学生の獲得に積極的ではなかったが今後力を入れていく。	留学生獲得に向けた広報活動を強化。留学生から選ばれる魅力づくりと環境整備。	留学生獲得に向けた環境整備。留学生の多い学校の運営状況の情報収集。		コロナ禍の募集の厳しさから日本人の高校生を最優先とした募集活動となり、留学生獲得に向けた施策は休止している状態である。		×	1名ではあるが留学生の出願があり、次年度には本校では初となる国費留学生2名の出願が出る見込みである		コロナ禍の募集の厳しさから日本人の高校生を最優先とした募集活動であった。留学生獲得に向けた施策は休止している状態である。	×

(3) 学生支援

※ 達成度・評価は ◎ ○ △ × の4段階

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
20	教育相談の整備	ステュー デントサポ ート課	高校までの学校生活に問題を抱えている学生も入学している現状である。問題学生への支援体制を整備していく。	問題を抱えた学生やその兆しのある学生に対し学校としての対応方針を決める教育相談を実施していく。運営には内規を設定し、運営の維持と対応の質向上をはかる。	全教員共通認識での教育相談運営		コロナ禍の学校運営の難しさもあり、教育相談は目標の月一回定期的運営は実現しなかった。それを補う為に適時ミーティングを行い共通認識に努めた。		△	問題には担任と教務副部長が連携し解決に取り組み組織的な対応を心がけた		感染予防の為に休校期間の為に、定期的な運営はスケジュール的に難しかった。それを補うための朝のミーティングを適宜実施することで短時間で共通認識をもつ努力は行っていた。	△
21	教育相談の定期的運営	ステュー デントサポ ート課	学校組織としての対応方針や状況判断を明確にし、担任が対応に困らない体制づくり。	教務部内だけでなく、スクールカウンセラーも交え、定期的な教育相談の実施。	月1回の定期的運営実施		コロナ禍の学校運営の難しさもあり、教育相談は目標の月一回定期的運営は実現しなかった。		×	適時ミーティングを行い共通認識に努めた		感染予防の為に休校期間の為に、定期的な運営はスケジュール的に難しかった。それを補うために朝のミーティングを適宜実施することで短時間で共通認識をもつ事が出来ていた。	△
23	退学予防力強化	ステュー デントサポ ート課	退学の大きな要因となる、人間関係のトラブルと学習意欲の低下に対し、予防策を講じ、退学抑制に勤める	教員の学生指導力・問題対応力強化のための研修会を計画し実施する。または、外部で行われるセミナー等に参加。	研修会の開催または外部研修会への参加		研修会の開催または外部研修会への参加は実現しなかった。		×	近年導入したメンタルヘルスチェックのハイパーQUを年2回実施しそれを元に担任は面談を実施し問題解決に努めた。		研修会の参加や実施は出来なかったがハイパーQUは効果的であると判断している。今後の継続と効果的な生かし方をしていきたい。	△
24	退学予防のための円滑なコミュニケーション	ステュー デントサポ ート課	人間関係のトラブルと学習意欲の低下に対し、予防策を講じ、退学抑制に勤める	クラス全員が気軽に話ができる関係構築のためにグループワークやレクリエーションの実施。	グループワークやレクリエーションの実施。		コロナ禍の運営では学生間の交流は実施できなかった。		×			感染予防に努め計画していた学生間の交流は出来なかった。次年度もこの状況であると考え、ハイパーQUを生かした対応、担任と学生のコミュニケーションで不足を補っていきたい。	×
25	退学予防モチベーションアップの施策	教務課	専門学校に進学はしても学ぶ意欲に欠ける学生もいる。わかりやすい目標設定が必要である。	就職や検定試験、単位取得など時期ごとに目標を明確に指導し、小さな成功体験を積み重ねていく学科・学年運営を実施。	学科・学年ごとの年間目標プランを製作し学生へ提示		学科・学年ごとの年間目標プランを学生に提示までにはいかなかったがHR等で単位取得状況を伝え学習意欲の向上を図った。		△		学科・学年ごとの年間目標プランを製作し運用	コロナ禍の運営は学校スケジュールが大きく乱れ、進めていくだけで目一杯となった状況であった。目標プランの運営は次年度の課題としていきたい。	△
26	学費未納問題 奨学金利用指導	ステュー デントサポ ート課	得た奨学金を他の使い方をして学費未納となるケースがある。口座の管理指導まで行わなければならない状況がある。	奨学金や授業料無償化制度で得た学費の適切な利用を指導し滞納の抑止。場合によっては口座管理についても指導を入れる。	奨学金利用者への指導を4月、9月に実施		対面授業が6月から始まったこともあり、奨学金利用者への指導は計画通りにはいかなかった。それを補うために問題がある学生には個別で指導を行った。		△		奨学金利用者への指導は申請手続きが収まる6月、10月に実施としていく	新たな奨学金制度が出来たことにより例年に比べ問題となるケースは学校全体としては少なくなっている。	△

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
27	学費未納問題 未納者指導	ステ ュー デ ン ト サ ポ ー ト 課	学費未納となる学生 に対し、解決に向け た支援を行っている。 保護者が経済的 に問題を抱えている ケースも多い。	未納学生とその保護者 に対し相談体制を強化。 解決に向けた支援体制 づくり。未納状況と納 入時期を考慮しながら 指導する。	未納学生・保護 者と5月、10 月に面談を実 施。		退学希望者2名に学 費未納分があり、納 入は不可能と判断し 除籍処理とした。		×		保護者・学生共に学 費納入に関して無頓 着なケースもあり状 況によって登校停止 も躊躇なく行う	除籍者の一人は学習 意欲もなく、学費を 払う意思もないとい う特殊な事例であっ た。今後も特殊な事 例が出ることを予想 される。	×

(4) 就職支援

※ 達成度・評価は ◎ ○ △ × の4段階

具体的施策			計画内容				結果および自己評価					学校総括	
中期計画 番号	施策名	担当 組織	これまでの教訓 (現状分析・課題)	内容 (目的・意味/手段・行動)	達成基準 (ゴール・目標)	想定され る費用	経緯と結果 (変更点・実施内容・達成内容)	費用	達成度 ※	成果 向上方策	問題点 改善方策	コメント	評価 ※
28	就職指導スケジュールの再考	教務課	企業側の募集活動の早まりが強くなっている。学校の就職指導も早めていかねばならない。	業界全体で採用活動が早まり、対応していくために指導時期を早めてスタートさせる。また、学生の就職意欲を高める指導も並行して行う。	就職指導スケジュールの1年生7月からの実施。		コロナ禍による6月からの登校となった為に指導スケジュールを早める計画は難しくなったが、1年生の就職意欲は高める指導ができたことで就職活動は順調にスタート出来た。		○	コロナ禍で求人減の状況ではあるが1年生の就職意欲は高める指導は出来た	求人減により令和3年度の内定率は大変厳しい予想がされる。対策の検討が必要である	就職活動をする2年生は厳しい状況となったが、1年生の就職意欲は高まっている。しかし、求人難の状況は引き続き予想されることから学校としても支援を行っていききたい。	○
29	適切な情報提供・学内企業説明会の実施	教務課	適切なタイミングで情報提供	学生の欲しい情報、学校側の与えたい情報を整理し、適切な時期に適切な説明会の開催	職業紹介特別講義4回実施 学内企業説明会8社実施		感染防止の観点から学内企業説明会は2社のみ、職業紹介特別講義の実施は取りやめた。		×	計画していた施策の効果と同様の成果となるように就職支援の授業内容で補った	感染予防の観点から企業側が学内での実施を見送るケースが多く暫くは実施困難な状況が続くと思われる	企業側も感染予防最優先の判断であり実施は困難な状況が続くと思われる。学生への適切な情報提供が目的であるのでそこを押さえた運営をしていきたい。	×
31	採用情報の収集	教務課	指導側の情報不足の面がある。積極的な情報収集が必要である。	マッチングに必要な募集職種、業務に必要な能力、キャリアアップ等の情報収集。そのための企業訪問実施と企業側の訪問対応。	企業訪問8社実施		感染予防の観点から訪問は控えた。採用情報の収集として親交のある企業から情報は得ている。		×	親交のある企業は情報提供等、協力的に対応いただいている	感染予防の観点から企業訪問は状況を見て判断	求人難の状況となり、学生が希望通りの就職は困難になっている。少しでも就職決定につながる支援を学校として行っていく。	△
34	企業・学生のマッチング	教務課	受験企業、希望職種を見つけることに滞る学生が多くなってきている。	就職活動の滞る学生に対し適合しそうな企業の紹介。学生個々に対応していかないと改善していかない状況が近年の傾向から予想される。	企業紹介を主とした面談実施。		2年担任が積極的に面談を実施。それにより求人が厳しい中、卒業までに就職先を決めることができた学生も多い。		○	コロナ禍の就職活動で学生達の意欲が停滞する中、面談は学生達を動かす効果をあげている	就職希望でも自分で受験先が見つけられない学生もいる。面談の実施、教員の相談力の向上も必要	2年担任が積極的に面談を実施した成果として卒業間近に就職先が決まる学生も出ていた。学生だけでなく教員も根気よく就職指導を続けていくことが重要である。	○
35	人生設計の視点からの就職指導	教務課	アルバイトと正社員採用を同等と考える学生もいる。	短絡的な判断でフリーターとならない様、就職することでの金銭的メリット等優位性を指導	就職未決定者を対象にした就職対策講座等の実施		計画通り就職未決定者を対象にした就職対策講座等の実施をしたが期待した効果は得られなかった。		△		就職未決定者には特に個別に指導をしないと効果が得られない	就職先に困る学生達には人生設計まで視野を広げることが難しい。入学時から職業教育を受ける上での姿勢として取り組むべきと考える。	△
36	励まし・応援態勢	教務課	面倒見の良さへの期待や教員と学生の親しさに魅力を感じて本学に入学する学生が多い。	就活の悩みでメンタル的に不調をきたす事のないよう、支援体制を強化。教育相談の活用も検討。	教務部ミーティングでの学生情報共有		2年担任が積極的に面談を実施して応援体制に努めていた。学生情報の共有は担当教員間で適時行なって情報共有に努めた。		○		問題を抱えがちな学生には特に個別指導をしていく必要がある	人との繋がりや応援が何よりも人を励ますことがあり、本校の学生達には必要なことと考える。全教員で取り組みことを改めて認識していきたい。	○

